

# SCOUTING 茨城

1 9 9 4 · 1 月 ★ 茨城県連盟広報委員会発行



## お祝い

平成5年春の勲章で、ボーイスカウト茨城県連盟参与・第7地区協議会長の安井茂一郎氏が「更生保護事業」の功績により藍綬褒章を受賞されました。

平成5年6月20日に境町で盛大な祝賀会が開催され、ボーイスカウト関係者も参加しました。安井さんのこれからのご活躍を期待しております。

本当におめでとうございます。



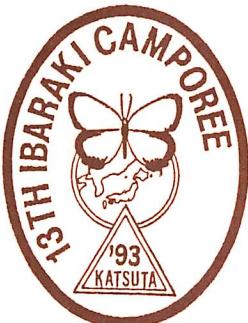
## お祝い

平成5年秋の叙勲で、茨城県連盟 關 正夫連盟長が 藍綬褒章を受賞されました。

石油業界の功績により受賞され、ボーイスカウト茨城県連盟では、平成5年12月19日、水戸市の「京成ホテル」で65名が参加して盛大な祝賀会を開催いたしました。

衆議院議員の中山利生先生・葉梨信行先生・参議院議員の狩野 安先生・茨城県教育長 生涯学習課長の和田洋子先生・ボーイスカウト日本連盟荒尾雅也事務局長などから祝辞をいただき、なごやかな祝賀会でした。

## ☆第13回茨城県キャンポリー特集号☆



## 第13回茨城県キャンポリーが開催される！

期 日 平成5年8月6日から9日までの3泊4日  
場 所 勝田市 陸上自衛隊 勝田小演習場

テ マ 『地球が先生』

サブテーマ「地球にやさしいキャンプ」の実践  
「拓かれたスカウティング」の実践  
「少しでも社会に役立つキャンポリー」  
各本部スタッフおよび各地区広報委員会からの報告資料

## 13 ICに思う

刈部 操

「地球が先生」のテーマのもと、第13回茨城県キャンポリーは、12年ぶりに勝田原で開催された。今回は、「地球にやさしいキャンプ」「拓かれたスカウティング」「少しでも社会に役立つキャンポリー」の実践をサブテーマにして展開し、関係者、担当者それぞれの分野で計画、準備、展開協力努力された皆様に敬意を表すものです。

又、会期中天候に恵まれずとも参加スカウト達がテーマに沿った野営生活と、プログラムへの挑戦、特に雨中での微動もせず開会式に臨んだことは、開会式参列者を感激させたものでした。これは、まさに「拓かれたスカウティング」にふさわしいことであり、各方面からさすがはボーイスカウトであると賞賛されたものであった。茨城のスカウトとして誇りに思っても当然と考えられる。

さて、県キャンポリーは4年に一度開催されることは周知のとおりで、いつも開催地の問題で悩みが生じ、種々議論されてきたが、今回も同様のことと結局勝田の自衛隊演習場以外にないということになり、昨年9月自衛隊当局に非公式に申し入れ、その後10月に正式文書を提出、自衛隊側としては、演習場使用及び支援内容について内部調整の上、平成5年2月に5年度の業務計画に組み込むとの回答を得、会場、支援の方向付がなされ、その後、支援の内容協議の中で給水車、炊事車による一部給食支援、開閉会式の音楽隊演奏等、細部が決定され、7月21日協力に関する協定書の締結が行われ決定したのである。

一方、勝田市長、教育長を表敬訪問、後援依頼をし、特に今回のキャンポリーはテーマのとおり、市内の空カン回収及び清掃奉仕等がプログラムに組み入れられたことについて勝田市担当部課の協力が得られ、スカウト運動が市当局内で更に理解されたことは、我々にとって成果があったものと評価すべきでしょう。

ここで、くやまることは、市の後援を得ながら市の広報誌に掲載依頼しなかったことであり、そのためにプログラムの中で「市民オリエンテーリング」が組まれていながら市民共々の実施ができなかったことである。これは、今後の反省課題であり、運営本部長として自衛隊との折衝に気を取っていたことにも起因する感じである。もう少し突っ込んで言えば地元でのPR不足であった。

反面、地元ライオンズクラブが積極的に準備の段階で全員による本部区域の草刈りと、施設資材運搬等き設営、撤収時を含めて奉仕を頂いたこと、更にライオネスクラブ員と地元団の父兄による本部給食、配食の奉仕を頂き大いに感謝するものである。

今回のキャンポリーは悪天候の中で展開されたが

それにもめげずスカウト諸君はプログラムに挑戦し、バイオニア章を獲得できた喜びは生涯心に残るものと確信したいものである。

そして成功裏に実施できたその陰には、各部長の献身的な奉仕と努力があったことを見逃すことはできない。欲を言えば施設の為の準備計画は遅くも一年前に決定し、充分余裕をもって行うべきであったと思う。4年後開催に向かって今から進めることを考えるべきで、特に会場の選定が大切である。

(13 IC運営本部長)

## “13 IC 雜感”

配給部長 小林成敏

遅いんじゃないかなー、と思ったその日は2月28日第1回(13 IC)準備委員会の日でもありました。

準備委員会の発足より実行委員会への流れは「基本実施要項案」が作成されるに及んで非常にスピーディーに作業が進み、委嘱された31名の各委員は夫々自分の役務を明確にし、テーマ「地球が先生」のもとテーマの具体策として

- (1) 地球にやさしいキャンプの実践
  - (2) 拓かれたスカウティングの実践
  - (3) 少しでも社会に役立つキャンポリーの実践
- を合言葉に限られた日程の下、スタートした次第です。

それでは私の受け持った配給部のアラカルトをお話したいと存じます。

## (1) 配給部の準備と実施展開について

配給部のメインは期間中の給食の献立、確保そして予算、それに付随した炊事燃料の調達にあります。今迄私が経験しなかった事でもあり、早速前回

(12 IC)の配給部長をされた飯村和広氏(第5地区県連理事)のご指導を願い、その内容を理解した訳であります。そこで私なりに配給部運営概要を作成し基本方針として「無駄なく作り、おもいっきり食べよう」をテーマに献立を発表致しましたが、献立表も実は種を明かせば現理事長 吉田孝俊氏の著書「キャンピング・ガイド」(昭和41年7月、東京電機大学出版局)よりお許しを得て作成したものです。これは日本連盟年長隊として昭和39年度に実施された富士野営に基づくものであり、成分表としてカロリーの配分も考慮にいれたものであります。

次に4日間の材料確保については県連学級理事の小野勝久氏のご尽力により(株)電鉄プラザの皆藤龍也氏のご紹介を得て、数回に亘って作成された献立表を基に材料の選定と見積りを自宅で協議しましたが、あいにく当時の野菜、特にキャベツの高騰に

は冷夏の影響もあり折衝のたびに変動するのを肌で感じ、大変驚いたものであります。

準備段階で一番苦労したことが二つあります。その一つは大会開催一週間前までに正確な参加人数の把握ができなかったこと、つまり決定後の移動や変更が生じ現在時の人員が不確定のままスタートしてしまったことがあります。

もう一つはもっと苦労したことですが、材料の配給をするにあたり大会本部と各野営区を別々にして支給する方法を、いつどのようなスタイルで配給すれば喜ばれるかという事であります。そこで次のようなポイントを軸にして案を練ったわけです。即ち

- (1) 配給の時間帯をどのようにするか
- (2) 配給の容量をどういう基準にするか
- (3) 配給の方法、野営区分別、隊別、人数別、これらの点について皆藤氏と何回も打ち合わせをして最終的に決定したことは——

(1) 第1日目の夕食より第4日目の昼食までの9食分の時間帯を設定し大会本部と各野営区毎に分けて各野営区の配給責任と支給時間を個別に決めて承諾を得たこと。

(2) 配給の方法として容量は全てグループ別、即ち5名単位として材料の支給をし、過不足については各野営区毎に配給係の責任に於いて調整すること。

以上の点を相互に確認し合い時間帯は夫々下記のように決定したのであります。

	朝	5時30分
大会本部到着時間	昼	10時00分
	夕	16時00分
	朝	6時30分
野営区 支給時間	昼	11時00分
	夕	17時00分

配給部長として特に留意したことは、新鮮な材料はその都度お渡しすべきだということを念頭に置いて協力ををお願いした訳ですがそれを心よく引き受けてくれたこと。更に各野営区配給係の方が全面的に協力してくれたことが遅滞なく出来たと思っており、この点大会本部配給部一同感謝しております。

(2) 配給部として嬉しかったこと

食事がプログラムに妨げられず、その材料に基づいて隊独自のメニューが作られたこと。食事の後の言葉が「アーウマカッタ」という言葉にホッとしたことです。

大会本部の皆さんにしても食事が待ち遠しく、出来上りを待って食べ終わった後「ウマカッタ」という言葉が配給部一同、全力を尽くした御陰で感動致しました。

それに特にお礼申し上げなくてはならないことは、陸上自衛隊の女性を含めた7名の方々の援助であり、大会本部としての給食がこれらの隊員の方々のご支

援をいたただいくことによって行事が滞りなくできることに深く感謝し、安堵した次第であります。

それに最後になりましたが、勝田第1団の御父兄の皆さんと勝田ライオネスクラブの方々のご奉仕をいただけたことは、配膳や後片付け等で大変お世話になりましたこと、厚くお礼申し上げます。

疲れましたが配給部全員、いい思い出となりました。

本当にありがとうございました。

## 13回茨城県キャンポリー

### 総務部日誌

大会総務部長 堀江 郁男

平成4年10月始めに準備委員会規定(案)と「13IC基本実施要項」(案)を作成し、10月25日の理事会で、「第13回茨城県キャンポリー」の概要が協議され、「準備委員会規定」と「13IC基本実施要項」が承認がされました。

直ちに準備委員会委員と各部の部長の選定に入りました。

12月理事会で準備委員と各部長の入選が承認され、いよいよ幕が降ろされました。

早速、キャンポリーの「ポスター・参加章」の図案の募集を各團にお願いしました。

2月28日には第1回の準備委員会を開催し、細部の打ち合わせ。

3月11日に各團に「実施要項」の送付

3月28日に第2回準備委員会の開催

平成5年度の茨城県連盟の事業計画の重点目標にも、「地球にやさしいキャンポリー」「すこしても社会に役立つキャンポリー」を第1目標としました。

4月18日の理事会でキャンポリー特別会計予算案の承認

キャンポリーの実行委員会委員の承認

4月25日第1回実行委員会において、「地区野営区組織」の作成 地区選択プログラムを地区に依頼する。

ポスター・参加章の入賞者の決定

◎ ポスターの部 優秀賞 高橋輝明さん 日立5団 BS隊長

◎ 参加章 の部 優秀賞 伊東善人君 水戸2団 BS隊員

5月16日 第1回参加隊長会議

キャンポリーの内容と各運営部からの準備内容の報告

6月初旬 「参加のマニュアル」(手引)の作成

6月19日 第2回実行委員会の開催 会場の現地視察

会場のレイアウト

7月10日 来賓各位に招待状の発送

7月11日 各運営部長会議

7月18日 第3回実行委員会

7月18日 第2回参加隊長会議 会場の現地視察

参加マニュアルを各隊長に配布

7月20日 各部との調整

特に配給部・施設資材部との調整

7月21日 勝田市役所・勝田教育委員会・陸上自衛隊施設学校

表敬訪問 吉田理事長・川又副理事長・刈部県コミ

堀江事務局長

8月1日 各賞状の印刷

8月5日 各部員 会場準備 本部の設営

ニッケンとの資材の調整 本部食堂の建立

## 8月 6日 開会式

## 大雨の中の開会式

大雨の中の開会式については、来賓の皆様からボーイスカウトらしく感激したとの賞賛をいただいた。

## 8月 7日 シニアースカウトフォーラム

## 8月 7日 スカウト教急法講習会

## 8月 8日 "

## 8月 8日 "

## 8月 8日 キャンボリー大集会 各地区ごとの「模擬店」

## [バザー]

模擬店・バザーは初めての試みでしたが、大変好評で2時間ですべて売り切れました。

## キャンボリー大集会で販売した益金を

ソマリアの募金に 100,000円(日本連盟)

北海道奥尻島募金に 148,512円(茨城新聞社)

合計 248,512円を募金しました。

## 8月 8日 カブスカウトプログラム

## (1) 大会本部 役員 「似顔絵」コンテスト

## (2) 地区対抗「細飛び大会」

## (3) 地区対抗「ドッジボール大会」

以上の3つのプログラムは、ベスト3名に記念品と表彰状を授与しましたが、カブスカウトには好評でした。

8月 9日 県教育庁生涯学習課・県民生活課・勝田市役所・  
勝田消防署・陸上自衛隊勝田駐屯地にお礼の表敬訪問  
橋本副連盟長・吉田理事長・川又副理事長・  
堀江事務局長

## 8月 9日 閉会式 天気に恵まれ、アリーナで実施

## 8月 14日 来賓・お世話になった各団体にお礼状の送付

## 10月 17日 キャンボリー反省会

最後に、刈部県コミッショナーが、勝田市と陸上自衛隊との交渉に半年前から熱心に訪問され、協力をお願いされたことに感謝いたします。

また、勝田市ロータリークラブ・勝田市ライオンズクラブ・勝田市クリーンライオンズクラブの皆様の資金の援助・資材の搬入・会場の草刈りなど奉仕下さいましたことに心より感謝いたします。

なお、大会本部各部の部長と部員の皆様の準備から、終了後の整理まで、長い間奉仕をいただきまして、無事に、事故もなく第13回茨城県キャンボリーが終了できましたことを感謝しております。

通り、颶風とテント張りにのぞんでいました。



昼食をはさみ、午後からも設営はつづきました。初日の夜は、予定していた隊營火も雨のため流れてしましました。

今日の設営の疲れと、明日からのプログラムに備え、今日はゆっくりと眠れたことと思います。

翌2~3日は、バイオニア章必修プログラムとして、子供達はS C選択プログラムに参加しました。

我が第3地区でのS C選択プログラムは、「暗夜行路」と「綱引」でした。

「暗夜行路」では目隠しをされた参加者たちがロープだけを頼りに順路を進みます。

途中道に穴が空いていたり、困難なコースが参加者たちの道を阻みます。



また、同じく必修プログラムの勝田市市内の清掃奉仕も行われ、カーブミラー清掃や、ビニール袋を片手に空き缶や、燃えるゴミなどを分別して、公園や公共施設の清掃に汗を流しました。

そして3日目の午後は、G H Q担当によるキャンボリー大集会が開催されました。

各S Cのバーや模擬店など、様々なブースが軒



第3地区広報委員長 秋山 充弘  
平成5年8月6日より9日までの3泊4日の日程で、ボーイスカウト茨城県連盟主催による、第13回茨城県キャンボリーが、勝田市東小石川「陸上自衛隊 勝田小演習所内」で開催されました。

この大変おおきな、4年に一度の大会を前に、日頃の各団の地道な野営活動が展開され、訓練に励んでこれたことと思います。

今キャンプでは、その成果を存分に發揮する絶好的のチャンスです。

我々第3地区は第3野営区(3 S C)へ到着しました。

しかし、せっかくのスタートというのに、天候は朝からのどしゃぶりの雨。

子供たちの顔も少し曇り気味。

でもそこはスカウト達、バスを降りると、すぐに着替え、設営には、ポンチョや雨具を着ていつもの

を並べました。

第3SCでも、カップヌードルの販売や、かき氷の販売に終始てんやわんやの賑わいをみせていました。

同夜のゲストナイトでは、普段あまり接することのない他団との交流を深め、キャンボリーの楽しい思い出の1ページとなつたことでしょう。

このキャンボリーを終え、ひとまわりもふたまわりも大きく成長した隊員たちに、この感激や経験を無駄にする事なく、これからスカウティングや、普段の生活に生かしてくれたらと思いました。

## レンズを通して参加した13 IC

2地区広報 平戸 妙子

ファインダーに向こうにすばらしい青空がのぞく。日の丸が旗めく、カメラを振れば、1000余名のスカウトの姿が写る。アリーナでの閉会式は感動的なものでした。

しつく雨に打たれ泥にまみれて幕を開けた時には、4年前の台風のキャンボリーを彷彿とさせられる感がありました。黙々と作業を続けるスカウト達の熱い想いが雨雲をも追い払ったのでしょうか。彼らはすべてのプログラムをこなしバイオニア章をクリアーして、あの青空をあおいだのです。

2地区的広報係としてこの13 ICの中で何をしたら良いか4名のスタッフで考え、第一に毎日スカウトの負担にならない程度の課題を設け提出依頼し、掲示板に張り出しました。その1「隊長の顔」については、隊長を「おやじ」と呼んでまさに特徴を良くとらえ単純な線の中に性格まで盛り込んでしまう力作ぞろい。その2「名物スカウト」については、どの隊にも例外なく変わり種がいるらしく、その上スカウト同志認めあっているのがよくわかる。その3「感謝」については、大地や自然、指導者に感謝の言葉のほか悪天候にまで感謝をしているところをみるとたくましいと言うか、何かを体得した満足感を味わっているのか、やはり喜ばしい事だと理解しています。



第2に記録用ビデオを作成すること。これが想像以上に大変な作業でしたが有能な2人のスタッフに頼りきり6本のフィルムを編集し、キャンプより3ヶ月経過した今、やっと完成をみました。あの表情、あの姿、あの風景と欲張って1時間20分になってしまったけれど2地区保管で貸出しもしようと考えています。



カメラを手に各団を廻ってみると、各々のゲートはまずまずの工夫がなされ被写体として申し分ないのでですが、さて工作物を目標にして歩いてみると満足すべき状態は少なく「これは」と目を止めた物は指導者の手が入りすぎていたりして、とは、スカウトOBのカメラスタッフの弁。他地区はどのような状況か知りたいものです。他地区的選択プログラムの中で目をうばわれたのは、7地区的水口ケットコーナーでした。さっそく取材をしたのですが工夫をしたという肝心な部分は企業秘密?とか言っておられましたが、しっかりとビデオカメラに納まっているので参考にさせていただきます。

又、当地区で担当し計画されたウォークラリー「かつたウォッチング」は、苦労の甲斐あって多数のスカウトを動員し他地区スカウト達との最大の交流の場となり得たことも数多くの写真が物語っています。



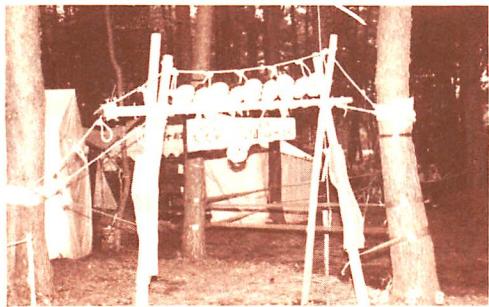
只ひとつ日本中で頭の痛い問題かもしれません、ファイサーの無いキャンプの寂しさは誰しもが感じている事実ではないでしょうか。益々不可能な状況になっていくのかと思うと残念でなりません。

こうした中で指導者の皆様の情熱と責任感、そしてスカウト達の真剣なる参加があってこそキャンボリーの成功はおとずれたものと信じます。カメラと

共にたのしんだ4日間、多くのスカウトの姿に出会い、又違う角度でのキャンポリーが見えたように思います。

県連盟及び2地区のスタッフ、そして自衛隊の皆様のご配慮ほんとうにありがとうございました。

スカウト代表の力強い別れの言葉が今でも耳にのこっています。大きな山を乗り越えたような清々しさが伝わってきました。すべてに感謝して明日への一歩につないでほしいと心から願ってやみません。



### 13ICに参加して経験したこと

第六地区 竜ヶ崎第一団

シニア一隊 上村忠正

8月6日～9日（3泊4日）にわたって、陸上自衛隊 勝田小演習場という所で第13回県キャンポリーが開催された。しかし、私は開催準備等の為に前日（5日）キャンプインした。

#### 1日目（8月5日）

午前10時頃に陸上自衛隊、勝田小演習場に集まり、6日からキャンプインするスカウト達に危険はないか等を確認し、各活動が行われるテント（ウォール型テント～集会用テント）等を設営、ここでは、私が設営したことのないテントがあったが他の団の人間に聞き、種々のテントの設営をおぼえることができた。また、その事がきっかけで、たくさんのスカウトとの交流もできたと思う。中には、1年前あいば野での日本ベンチャー9'2'の会場で知り合ったスカウトとの出会いもあった。

#### 2日目（8月6日）

キャンプインするスカウト達が続々と集まって来た。私は、県本部の方から運営本部の救急係を命じられた。救急係をやるにあたっては、過去に少しだけやったことはあるが、ほとんどやっていないのに近いため、こんな大きな大会で救急係を命じられた時、「うまく処置できるかな。」とか、「人の命を預かる係であるのに自分にできるかな。」等が、頭の中に浮かんだ。命じられた後、開会式だ！開会式は雨が降っており夏なのにとても寒かった。そのため、患者も多かった。その患者のほとんどが、「熱っぽい。気もちが悪い。腹が痛い。」等であつ

た。また2日目の重要な活動としては、スカウトフォーラムである。スカウトフォーラムでは2日間（7日～8日）にわたって「地球に優しく」というテーマで話し合った。問題は「どうすればゴミの減量化、再生利用の促進ができるか。」であり、それについて話し合ったところ、市民への呼びかけ、空缶、空ビン、古紙、ダンボール等を分けるなどというものもでてきた。中には電気を無駄に使っているので自家発電すればいいとか、色々と活発な意見が出され、結果的には、リサイクルをすればいいということになり、数時間にわたって緊迫したムードで会議は行われた。

#### 3日目（8月7日）

救急の方では、あまり大きな怪我というものはなかったが、私自身、夜勤をする日ということもあって少し不安な面もあった。また、午前から午後にに行なわれる救急講演会では人工呼吸・気道確保・移動用ベットの作り方等の指導が行われた。中には、人口呼吸の時空気がなかなか入らず困っている人かいだ。教えてあげたら「ありがとう。」という言葉が返ってきたので、とても嬉しかった。救急講演会等、数々の活動をしていたら夜になってしまった。「救急係の夜勤だ。」夜勤は2人で行った。8時～9時頃だった。火傷をしたということで救護所に来たのである。その時、あいにく医師がトイレに行って、僕一人だった。さっきまでは、大勢の人がいてくれたので安心して処置ができたのだが、1人の場合、患者が来ると、いざ知っている処置の仕方でも忘れてしまい困った。

しかし、患者が来て、すぐに医師がもどってくれ助かった。その時思った事は、救急の経験を積み、もっともっと人と接しなければならないと思った。

#### 4日目（8月8日）

最終日、前日ということもあり、数々の活動が行われた。特に印象に残ったのが、ビーバー隊、カブ隊等が参加するスカウト祭である。クラフトコーナー、売店等が出て多数の人々で盛りあがっていた。また、取手2団によるコンサートでは、スカウトらしい独特の演奏を鑑賞することもできた。

#### 5日目（8月9日）

キャンプ最終日である。せっかく友達となった人の別れはとても悲しい。その思いを抱きながら撤収に取りかかる。友達になった人の住所を聞き合ったり、又いつか会おうとか、いろいろな話が出た。あと1日あればなーという思いが一層つのるばかりである。今回のキャンプで数々の出来事に巡り合っても楽しいキャンプであった。また、いつか、この様なキャンプがあった時は、参加したいと思う。その時は、もっともっと勉強し3日目にあった火傷事件のような事に対処出来るような人間になりたいと思う。

## 大好評だった「水口ケット」と 「手焼きせんべい」

第7地区広報委員会 安田 誠

7地区は、今回の県キャンポリーに6隊、スカウト65名、奉仕スカウト10名、指導者16名で参加しました。雨の中の開会式では、不安そうな顔のスカウトが多かったように感じたものの、大きな事故もなく、最終日に全員バイオニア章を胸に閉会式に参加していました。その誇らしげな顔をファインダー越しに見る時、たった数日のうちに「ずいぶん大きくなったな」と感じたのは、ズームレンズを望遠にしていたからだけではなかったような気がします。

忙しさにかまけての集会不足だったにもかかわらず、日ごとに明るく、楽しそうにプログラムをこなしていくスカウト達を見ると、隊長の役目は「教えようすること」ではなく、「機会を多く作ってやること」ではないかと反省させられました。

今回の県キャンポリーで7地区として特筆することは、選択プログラム及びキャンポリーナー集会での模擬店の大成功がありました。その裏には、深夜までおよぶ隊長会議による種目の検討、各隊の任務分担による協力等、担当したリーダーの方達にはご苦労さまでした。これも、7地区が家庭的雰囲気をもっており、「リーダー間のコミュニケーションが旨くいっている証拠かな」と、自負しています。以下「水口ケット」「手焼きせんべい」について説明いたします。

### 「水口ケット」

選択プログラムについては、隊長会議でもいろいろな案が出て、なかなか決まりませんでした。前回と同じ“火起こし”でごまかしてしまおうと言う事になりましたが、他の地区で既に計画していて、重複してしまっているとのこと、再び隊長会議です。最終的に“紙すき”と“水口ケット”が残りました。ともにクリヤーしなければならないことが多く、なかなかまとまりませんでしたが、各團で任務分担がしやすい“水口ケット”に決定しました。指名競争入札によるロケット本体及び燃料加圧装置等の調達、エンジン部品の作成、本体付属品の作成、各團での準備もなかなか大変だったようです。燃料については幸いにも現地で入手できました。

ご経験なさった方は、お分かりかと思いますが、ロケット組み立ては簡単なようでなかなか難しく、仕上り具合が即、打ち上げの時に影響しているようでした。

“こつ”的分からぬいうちは、ズボンがびしょ濡れになる人が続出していました。また、打ち上げのときには、ちょっとした勇気が必要であったようで、ファインダーをのぞいていると、皆それぞれ緊張しているようでした。回りにいる人も一緒に大声での

カウントダウン、「20、19、18、…3、2、1、0、点火」一瞬のうちに大空めがけて飛び去ります。失敗しても成功しても大歓声です。担当したリーダー達は、その大歓声を聞くことが一番の楽しみで、嬉しそうでした。



### 「水口ケット悲話」

今回の「水口ケット」成功の裏には、多くの悲しい被害者がいたのを報告しておきましょう。それは、ロケット本体が競争入札だったため、本体内部に燃料以外の正体不明（無色・透明・発泡性有り）の液体が詰まっていた、ロケット打ち上げに大きな障害となりました。しかし、“地球にやさしいキャンプ”を実践する7地区のこと、お借りしている山の中に捨てる訳にはいきません。苦肉の策として、7地区的スカウト達に飲ませることにし、毎日食材とともに配給して、処分させていました。その後、「調子を崩しているスカウトがいる」と言う話を耳にしないところを見ると、正体不明の液体は人体に影響がなかったのだと、一安心しています。

### 「手焼きせんべい」

まちの祭で“手焼き煎餅”を某團で販売したところ、市民に大変好評であったとのことから、7地区的模擬店でもやってみようと決定しました。食べた方は、そのおいしさに驚かれたのではないでしょうか。それもその筈、某隊長の妹さん（せんべい屋）の所から、日本各地の観光地に発送され、観光客に大好評を得ている“高級おかき”そのものですから。儲けはなし、原価そのままの販売だったので。700枚準備はしたものの、焼き上げるのが間に合わないほどで、1時間で完売てしまいました。実は売れ残った場合には各隊に原価で購入させ、持ち帰れる覚悟だったのです。口に入らなかったお客様には、この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。

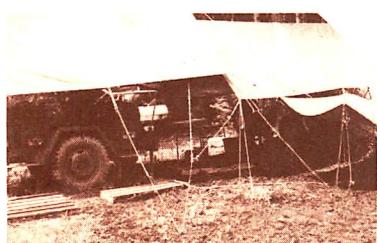




大会本部



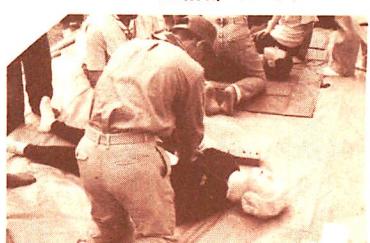
配給部 大食堂



自衛隊炊飯車



スカウト救急法講習会



似顔絵コンテストのモデル



ビーバーの縄飛び



奥尻島募金水戸2団ビーバー隊



7地区の模擬店古河センベイ



1地区のバザー



綿あめ模擬店



やきそば模擬店



賑わうキャンポリー大集会

**編集後記** 県連広報委員長の相馬さんが12月で仕事上の都合で、委員長を引退されました。

県キャンポリー特集号の原稿を既にいただいておりますので、早速作成することにいたしました。

大変遅くなりましたことをお詫びいたします。

県連盟事務局